

### 定期訪韓団報告③

#### 民主労総全北本部訪問

十一月七日午後、民主労総全北本部（全州市）を表敬訪問しました。貸ビルのワンフロアに本部事務所と傘下の産別組合の各組合事務所がありました。各事務所を案内された後、バス労働者と交流。公共運輸労組・全北バス支部の役員が多忙な時間を裂いて報告を下さいました。

#### トイレもバスの中

全州市で路線バスを運行している七つの会社（行政から助成金をもらって経営）

の労働者が結集して三年間、三次の闘争を展開。大きな前進をかけた。大きい攻防が続く。

バスの路線はとも複雑で終点が百カ所。長い日は一日十八時間労働。低賃金のため休日はアルバイト。休憩時間もトイレもなく、車内でビニール袋で用を足すという劣悪な労働条件だった。経営者は行政と癒着して私服を肥やし、御用労組の韓国労総は経営者と一体。

#### 寒さと飢えに耐えた

#### ストとテント箆城

二〇一〇年十二月、七つのバス会社の七五〇人が全面ストに突入。バス二〇〇

三〇台を各会社の正門に配置、前輪の空気を抜いて市内バスを全面運休に追い込んだ。その日からテント箆城に入る。連日、集会やデモで市民に理解と支持を訴え続けた。骨の髄まで凍みる寒さに、抱き合って眠り、キムチのおかずだけで空腹をしのいだ。翌年、権力は

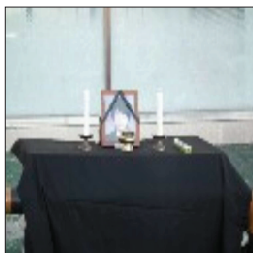
五百人の機動隊を動員して二度の強制執行。死を覚悟し、シンナーをまいて火をつけ抵抗したが全員連行。しかしねばり強い闘いで、

四月暫定合意書締結にこぎつけ、百四六日の闘いは終結し職場復帰。その後も会社は組合弾圧を続け、第二次・百十三日間、第三次・二日間のストライキを決行、

その間には順法闘争を展開してきた。今、組合員数は四千人に増えている。

☆☆☆☆

闘い方が半端じゃない。改めて感服！です。



左 全州市内のサムスン社前。チェジョンボム氏遺影と献花台



右 たそがれ時、社前集会が始まった。

組織を強化拡大し、階級的労働運動の発展をめざそう！

**サムスン下請労働者の死**

夕刻、同じ市内のサムスン電子前で持たれた追悼集会に参加しました。

一週間前、サムスン電子サービス(完全子会社)・

忠南天安センターで働くアフターサービス技術者の

チェ・ジョンボム氏が労働組合弾圧と過酷な労働条件に抗議し自ら命を

絶ったのです。

三四才、妻と一歳の娘を残し…。

チョン・テイルさんにはなれないけれど…

最後のメッセージにはこう書かれていました。

「これまでサムスンサービスに通い、とてもつら

かった。腹が減って暮らせず、みんなとてもつら

くて、そばで見ていることもつらかった。それで私はチョン・テイルさん(一月号ご参照)のようににはできないとしても、私は選択しました。ぜひ役立つことを願います」  
会社は組合活動をする彼の仕事を干し完全出来高払い賃金は百萬元(約十万円)以下に。日常的監視、パワハラ、罵倒で追い詰められたチェさんは自らの死が反撃の狼煙となる事を願ったのです。

**「サムスン無罪」**

**無労組経営ほこる会長**

サムスンの会長は絶対

に民主労組を作らせないことを信条に、国内総生産の四分の一に相当する額の売上高を誇る巨大財閥にのしてきた経営者です。「サムスン無罪」と

いう言葉がある程。サムスンII国益だから何をやっても許されるということ。いったいどれ程の労働者がこの支配を打破するため血の涙を流し、命を削ってきたことか。

**死をムダにしない!**  
集会では会社前に遺影と献花台をおき、百人ほどが歩道に座込み。地域の労働者が次々と献花し

「死を無駄にしない」と決意表明。他の企業でも

労働者が同じ状況に置かれていたとの報告も。訪韓団からは団長の圧送労組・阪口さんが発言、カnpaを手渡しました。

日本も同じ。闘いが弱い分もっと酷い。労働運動の責任は重大です。

**ついに謝罪させた!**

十日の全国労働者大会の前段では金属労組がソウル本社前闘争を展開。組合と遺族は謝罪と組合破壊をやめよ!と要求。

ILOにも提訴しました。会社は燃え広がる怒りに包囲され十二月ついに謝罪、労組弾圧をしない事を約束。大きな勝利です!

南労会支部 OH